



南浦和中だより



第 5 号
 平成 30 年 8 月 28 日(火)
 さいたま市立南浦和中学校
 さいたま市南区辻 6-1-33
 Tel 048-863-0753
 さわやか相談室 直通
 Tel 048-837-5909

《学校教育目標》日に新た 心豊かに たくましく



「心が変われば・・・運命が変わる」

校長 益子 慶次

38日間にわたる「夏休み」も、終わってみるといつものようにあっという間だったような気がします。その間に、様々な経験をし、見聞も広がったことと思います。その経験等が自分自身を高めることに役立ち、自信となり今後の行動に表れてくることを期待しています。

さて、第100回大会の夏の甲子園では、スター軍団と言われた大阪桐蔭高校が見事に史上初の2度目の春夏連覇という偉業を達成しました。一方、優勝という悲願はまたかなわなかった東北勢。しかし、吉田輝星投手中心に大旋風を巻き起こした雑草軍団、秋田県立金足農業高校。その吉田投手は1年秋からエースナンバーを背負い、球速もめきめきと上昇。ただ守りのミスなど出ると、マウンド上で不満な態度を出し、他の選手が怖がるような「お山の大將的存在」だったということです。監督からも「自分の投球でカバーしてやろうという気持ちになってほしい」と指導していたとのこと。そんな吉田投手が変わったのは、昨夏秋田大会決勝で打ち込まれて敗れてからでした。吉田投手は「仲間の思いを背負い、チームのために投げる」と心を入れ換え、練習で先頭に立ち、エラーした仲間にも笑顔で声をかける大黒柱に成長し、チームも変わっていったそうです。



かつて日本のプロ野球とメジャーリーグで活躍し、日本人初のワールドシリーズ MVP、そして国民栄誉賞を受賞した松井秀喜さん。現在はニューヨーク・ヤンキースの GM 特別アドバイザーを務めています。松井さんは彼の母校、石川県 星稜高校の野球部の山下 智茂名誉監督の座右の銘で星陵高校野球部の部訓でもある言葉を大切にしているそうです。それは、

「才能とは、努力ができることである。心が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わる、人格が変われば運命が変わる」

松井さんは高校1年生の夏から4番を打ち、甲子園にも出場し周りから色々と騒がれ、2年生になったときには、有頂天になっていたそうです。その時に当時の山下監督から「今のままでは成長しない、お前くらいのレベルの選手はいくらでもいる」と叱られ、落ち込んでいた時に部訓を読み、その時初めてなんとなく意味が理解できたそうです。

その次の日から自主的に外野の隅で1週間練習に参加せずに、ただ黙々と草むしりをしたそうです。

松井さんは、高校3年の夏の甲子園第2回戦の試合で、5打席すべて勝負させてもらえませんでした。全打席、バットを振ることもできない敬遠のフォアボールでした。しかし彼は、表情を全く変えることなく1塁ベースに向かいました。試合後も相手を批判することもなく、これも野球の戦術なのだから仕方ないと語っていました。後年、山下監督は、「松井の人格があのまま成長していなかったら間違いなく甲子園での5打席連続敬遠の時、悔しい表情を表に出し、地面にバットを投げつけていただろう」と言いました。

うぬぼれていた高校球児、松井さんは、監督の言葉を咀嚼し、草むしりをしながら心を変えたのだと思います。そのことで、行動や習慣が変わり、人格、そして運命まで変え、ヤンキースの主軸を任されるほどの野球選手になったのです。

2学期には、体育祭、合唱コンクールという大きな行事があります。新チーム初の公式戦である新人体育大会もあります。どんな心構えをもって取り組んでいくのでしょうか。特に3年生は、中学校生活最後となる様々な行事に取り組みながら、進路決定に向けて勉強もしていくわけです。皆さんの前途には、様々な転機や分岐点が待ち受けているはず。そんな時には、他人ではなく、是非、自分の心を見つめ、向き合ってみてください。自分の弱い心に負けない強いながらも優しい自分になれることを祈念しております。



